

第1回策定会議の意見振り返り

【凡例】 赤文字：地震 青文字：津波・風水害 緑文字：土砂災害 黒文字：その他全般

項目	第1回策定会議で出された意見
①災害の基礎知識・ 基礎情報	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生に伴う火災 ・降雨量と河川水位の関係（自宅の浸水位） ・各河川の避難水位の明記 ・二俣川、阿多古川の水位（天竜川バックウォーター）の考え方 ・増水した河川に近づかない ・山崩れ・土砂災害 ・山崩れ予兆（大雨時、沢の水が濁る、小石が流れて来るのは山崩れ証拠） ・過去に発生した土砂災害の記録、地名の由来などを若い世代に伝える ・自宅の地盤状況 ・発生が想定される災害の内容と規模 ・倒木被害
②その他の知識	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の利用方法（開け方） ・備蓄品の種類・量 ・災害時の非常持ち出し品（雨具、手袋、ヘルメット、懐中電灯、長袖、長ズボン、3日分の食料・水など） ・避難所に持参する食料 ・自治会による自主避難 ・水防団の位置確認 ・急病人の対応
③意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路を決めておく ・火災は予防第一、火災報知機と消火器の設置の徹底 ・気象情報や同報無線に対する注意 ・家庭内でリーダーを決める ・早めの避難行動の呼び掛け ・近隣への声掛け（避難勧告時など） ・想定外を想定した対応の必要性 ・1人ひとりが避難所へ行く
④情報収集・伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨量の状況や河川の水位状況、河川の氾濫状況等の情報 ・道路（生活道路）の不通情報 ・土砂災害の発生情報（位置、規模、交通の可否） ・気象情報の入手方法 ・どこに、何を連絡すればよいか ・自主防災隊への連絡方法 ・家族との安否確認の方法
⑤発生前の減災方法	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の耐震化
⑥災害発生後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を感じたら直ちに消火行動 ・自分の身の守り方 ・避難するタイミング（自己判断基準） ・危険な場所には近づかない ・家族の安否確認後は持ち場を離れる ・孤立集落の対応 ・時間帯別（昼夜）の避難行動
⑦防災マップ	<ul style="list-style-type: none"> ・避難地・避難所 ・身近で安全な場所（家族で共有化） ・長期間の避難を想定した避難所 ・地すべり・急傾斜地崩壊危険区域等 ・道路名称を記載 ・地名の明記
⑧高齢者・要援護者・ 災害弱者	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・独居者世帯の確認 ・要援護者の支援 ・安心キットの活用 ・各家庭玄関に避難所を示す準備あり ・1人暮らし高齢者の避難方法
⑨冊子の体裁・表現方法	
●今後の課題（別途検討が必要な事項）	
ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> ・減少した地域協働センター職員による災害時の対応 ・救護支援体制
ハード対策	<ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所の安全性 ・ダム、橋梁などインフラの安全性 ・山崩れに伴うダムの堰き止めと崩壊 ・地域協働センターにおける情報把握 ・災害時リーダーの必要性（各地区における防災エキスパートの養成など） ・インフラ（電気・ガス等）の復旧対策